

# 第27回男子ハンドボール世界選手権2021エジプト

## 試合結果報告

試合日 2021年1月17日

予選ラウンド

J P N		Q A T
16	前半	15
13	後半	16
29	合計	31

戦況

別紙

No.	ポジション	氏 名	得点
10	LW	杉 岡 尚 樹	
12	GK	岩 下 祐 太	
13	PV	笠 原 謙 哉	1
14	CB	北 詰 明 未	
15	LB	部井久アダム勇樹	
18	LB	成 田 幸 平	1
19	RB	徳 田 新 之 介	
20	RB	渡 部 仁	3
21	LW	土 井 レ ミ イ 杏 利	7
22	GK	坂 井 幹	
25	RW	元 木 博 紀	2
27	PV	玉 川 裕 康	
31	LB	吉 野 樹	5
33	CB	東 江 雄 斗	6
36	RW	出 村 直 嗣	
38	CB	水 町 孝 太 郎	1
39	GK	中 村 匠	
40	PV	高 野 颯 太	
41	RB	徳 田 廉 之 介	1
43	PV	吉 田 守 一	2
合 計			29

## 戦況

世界選手権2戦目の相手はアジア選手権2020の優勝国カタール代表。アジア選手権では28-36で敗れており、帰化選手を揃え近年アジアを席卷してきた強豪国。2015年の世界選手権では準優勝の実績を持つ。

日本は、クロアチア戦と同じく、GKに岩下、成田と笠原をセンター、2枚目に渡部と吉野、1枚目に元木と土井を配置した「6-ODF」でゲームスタート。攻撃は、プレーメーカーに東江、渡部と吉野がバック、元木と土井をウイング、PVに笠原の布陣。この日のベンチアウトは杉岡、中村、出村、部井久。吉田が新たにベンチ入りした。

立ち上がり、この日誕生日を迎えた渡部のカットインにより日本が先制。カタールもFrankisのミドルで得点するも、日本はクイックスタートから元木のサイドで引き離す。成田の速攻も決まり、好スタートを切る。日本は相手のキープレイヤーFrankisを止めにかかるが、コンビネーションプレーから、日本のセンターが対応できずに、シュートを決められるケースが多くなる。前半8分には5-5。その後も、DFがなかなかうまく機能せずに、前半13分、8-9と逆転を許したところでタイムアウトを申請。高野と吉田を投入しDFシステムを「5-1DF」に変更して、DFの立て直しを図る。その後、渡部のミドル、吉野のポストで追いつくと、18分吉田のポストで3連続得点で逆転に成功。カタールがタイムアウトを申請、退場+7mスローのチャンスを与えてしまうも、GK坂井が好セーブ。直後の攻撃で吉田のポストプレーから得た7mスローのチャンスを東江が落ち着いて決めて、良い流れを呼び込む。途中出場の水町のリードから吉野のカットイン、東江の7mスローなどで着実に加点し、1点リードで前半を終了する。

ハーフタイムでは、試合前のミーティングでも確認していた、この試合の勝敗を分けるポイントであるDFについて、再度の共通理解を図り、また、後半に向けて新たなプランも共有して後半に臨む。

後半、立ち上がり、坂井の好セーブから渡部がノーマークを創出するも決めきれず、直後の3次速攻で、またしてもFrankisにミドルを決められてしまう。その後も、東江の個人技、徳田(廉)と吉田のコンビネーションなどで、シュートチャンスまでは良い形を作るものの相手GK・ABIDIの好セーブに合い得点が奪えない。その間に5連取されてしまい、16-20と4点のビハインドとなる。日本はタイムアウトを申請して流れを呼び戻しにかかる。後半15分からは、相手の中心選手FrankisにマンツーマンDFを仕掛け、これが奏功し、土井のサイド、GK岩下の好セーブから成田から笠原への速攻などで、後半21分に遂に同点に追いつく。さらには、岩下のセーブから速攻が始まり、東江が持ちこみ、サイドの土井に素晴らしいパスからのサイドで6連続得点、27-26と逆転に成功。カタールがタイムアウトを請求。その後、日本は東江のリードから元木が繋いだ土井のノーマークや、元木のサイド、東江の速攻など多彩な攻撃を仕掛けるが、を相手GK・ABIDIが連続でファインセーブ、その間に29-30と再逆転を許してしまう。後半残り1分、徳田(廉)と吉田のコンビネーションから得た7mスローのチャンスを今度はGK・Saricにセーブされてしまい、万事休す。29-31での敗戦となった。

勝利にはあと一步届かなかったが、最大5点差をひっくり返すなど、チームの進化が垣間見えた試合でもあった。予選ラウンドは次のアンゴラ戦(19日)が最終戦となる。メインラウンド進出に向けて最善の準備をして試合に臨みたい。